

全国的にも、熱心に活動するの、がこれだけをする組織がこれだけ熱心に活動するの、全国的にも



第2回「アーツなカフェ」

### 前橋文化推進会議

第8回はアーツ前橋の文化推進会議について紹介します。

この組織は略して「ブンスイ」と呼ばれ、開館までの1年間活動し、地域とアーツ前橋をつなぐ役割を担ってきました。毎月の定例会議以外にも、特定の議題のための会議のほか、市民向けの情報発信・話し合いの場をつくる「アーツなカフェ」を6回開催

## アーツ前橋探検

vol.8



珍しいといえます。

参加メンバーは、公募参加も含めて、会社員、経営者、演出家、デザイナーなど、職種も年齢も幅広い多種多様な人たち10人（途中から9人）です。当然、考え方も意見も違うので話し合いがまとまらないこともありましたが、それは、多様な考えの人がいる現実を反映しているといえます。しかし、地域が芸術文化の振興にどう関わることができるか、深い議論を積み重ねることができました。

その成果が実を結び、事業の計画を作ってきたアーツ前橋に多くのアイデアをもたらすことができました。例えば、館の入り口に示した3つの活動コンセプトを作成する際も、ブンスイのメンバーと意見交換を行いながら文章を作り上げました。

これからは、アーツ前橋の評価や助言を行う運営評議会にメンバーの1人が参加し、ブンスイから提案された意見を運営に生かしていく仕組みを作っていく予定です。

問い合わせは  
アーツ前橋 ☎027-2300-1144

## 相手を尊重して居場所をつくる



長年にわたり更生保護活動に尽力  
深谷 茂さん 76歳  
野中町

犯罪や非行をした人の立ち直りを手助けする保護司を22年余り務めてきた。この功績が評価され藍綬褒章を受章した。「厳かな皇居の豊明殿で、天皇陛下にお会いしたのは人生最大の晴れ舞台です。今まで支えていただいた皆さんへの感謝の気持ちがあふれてきました」

保護司は、保護観察中の少年から大人まで老若男女さまざまな人を支援する。過去の過ちから更生するために、何度も相談を受ける根気のいるボランティアだ。「最初は保護司の仕事が分からず不安でいっぱいでした。償いをしていく途中の人とどう接していいか分からず迷ったこともあり。ただ、更生した人からの感謝の一言で全てが報われます」

ともあるという。いつも相手の立場を尊重した優しい指導を心掛けてきた。「相手と同じ目線で話すことが大切です。妻もそれを理解してくれて、いつも自然に接してくれていました。そのお陰で長年活動を続けられたのでしょうか」

保護司としてだけでなく、さまざまな場面で地域貢献に携わってきた。「父を早くに亡くしたこともあり、30代から自治会活動に関わってきました。地域の皆さんに支えられて今があります。また、今後は保護司のことを広く知ってもらうため、啓発活動を頑張っていこうと思っています」

これからも地域のために尽力したいと考えている。地道な努力を重ねてきた姿勢はずっと変わらない。



### 小さな鉢に壮大な自然美

11月1日から3日まで、市民文化会館で市民芸術文化祭「自然趣味盆栽展」を開催しました。丹精して作り上げられた77点の素晴らしい作品が展示され、中には樹齢100年以上の樹木がある作品も。訪れた人は、ずらりと並ぶ力作を興味深そうに見入っていました。



### アーツ前橋グランドオープン

10月26日、アーティストや市民が行う芸術文化活動を支援する施設「アーツ前橋」がグランドオープンしました。市の収蔵作品や若手芸術家の作品を展示する開館記念展「カゼイロノハナ未来への対話」を来年1月26日(日)まで開催中。ぜひ、ご来場ください。



### まちなかが大盛り上がり

11月3日、中心市街地で秋穫楽市と健康フェスタを同時開催しました。前橋産農畜産物の販売や焼肉の無料配布などのほか、健康に関するイベントを数多く実施。また当日は、酉の市や着物でジャックin上州なども行われ、中心市街地が大いに盛り上がりしました。



### 建島さんが受賞の喜び語る

前橋文学館で10月27日、詩集「死語のレッスン」で萩原朔太郎賞を受賞した詩人・建島哲さんへの贈呈式と記念講演を開催しました。記念講演では建島さんが、ユーモアを交えて自作について解説。笑顔を見せながら受賞の喜びを伝えていました。